

1 単元 豊橋の港はすごい！ ～世界の三河港～

2 単元目標

- 我が国の産業を支える海運や港で働く人々の仕事に関心をもち、意欲的に調べようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ◎全国有数の取引額をほこる三河港の仕組みや、そこで働く人々の仕事を追究する学習をとおして、我が国の海運の仕組みや役割についての自分の考えを表現することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- グラフや写真などの資料を活用して、我が国の海運の仕組みや役割についての必要な情報を集め、読み取ることができる。
(観察・資料活用の技能)
- 我が国の産業における海運が果たす役割やその重要性を理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

本学級の児童は、社会科の学習に対する関心が高く、話し合いの授業でも多くの子が活発に意見を言うことができている。単元「わたしたちの生活と食料生産」では、産地の地形や気候に応じて適した作物がつけられていることを学習したうえで、「愛知県の農業産出額を上げるためにはどうしたらよいか」について話し合った。そこでは、他の農産物と比べ全国順位が低い米の生産を上げるべきかどうか焦点となった。「ライバルとなる熊本や宮崎も米の順位は高くないから、米の生産を上げれば勝てる」という意見や「米づくりには広い農地が必要で、愛知には向いていない。施設園芸に力を入れるべきだ」などの意見が交わされ、活気ある話し合い活動となった。このように、社会科の学習課題に意欲的に取り組み、活発に意見を交換し合える児童だからこそ、地元豊橋の重要な産業拠点である港の仕組みや役割を学習する単元を設定すれば、日本の産業を支える海運の重要性に気づき、豊橋港・三河港のこれからの発展を考えるようになるだろうと考えた。

三河港の取引額は、全国の港の中で第7位であり、特に自動車の輸入量では全国1位、輸出量でも全国3位(2016年)を誇る全国でもトップクラスの重要な港である。三河港の中でも貿易において主要な役割を担っているのが豊橋港である。神野地区には、外資系自動車企業が集まり、さまざまな外国車の輸入拠点となっているし、明海地区には、フォルクスワーゲンジャパンの本社もある。しかし、児童の意識には豊橋に港があることは知っていて、そこには多くの外国車が並んでいることはイメージとしてもっているが、豊橋港や三河港の役割やそのはたらきの重要性は理解していない。日本の貿易の99.6%は船を用いた海運によって支えられており、周りを海で囲まれている日本の産業にとって海運のはたらきはまさに生命線である。日本の海運の一端を担っている豊橋港を擁する三河港を教材として学ぶことは、日本の産業の未来を支える子どもを育てると同時に、豊橋の未来を切り開いていく子どもを育てることにもつながると考える。

地元とはいえあまり身近ではない港のはたらきに関心を向かせるため、単元の導入では、自動車運搬船から外国車が陸揚げされる様子や、港に隣接するフォルクスワーゲングループ・ジャパンの整備工場内を見学する活動を行う。実物大の自動車運搬船やたくさんの外国車が並んでいる様子を実際に見ることで、豊橋港が海運の拠点であることに気づき、その仕組みや役割に関心をもつだろう。見学で港や船に関するさまざまなものや、そこで働いている人々を目にした児童は、「港や船の中で働いている人々がどのような仕事をしているのか、もっと知りたい」という思いをもつようになるだろう。このような追究意欲をもった児童に、「海運と船と港の役割」のパンフレットやワークブックを配付し、追究を支えていく。児童の問題意識は、大きく港に関することと船に関することとに分かれることが予想されるので、それぞれが追究したいこととに分かれて調べ学習をすすめていくことにする。そして、「実際に働いている人々の様子を見たい」という思いが高まることから、明海地区にある新来島豊橋造船への見学活動を取り入れる。造船所では、大型貨物船がどのようにしてつくられているのか学ぶとともに、船が果たす役割の重大さや海運の必要性についての話を伺う。そうすることで児童は、日本の産業にとって海運のはたらきは必要不可欠であり、豊橋港をはじめとする三河港の重要性に気づくだろう。また、大型貨物船の船長をゲストティーチャーとして招き、仕事の内容や大変さ、やりがいを感じることを話していただくことで、海運にかかわる仕事の価値をあらためて認識するだろう。一方で、近年、海事産業に従事する日本人の数が減少し、その担い手が外国人に移りつつある現状を児童に提示し、これからの日本の海運の姿について話し合わせたい。そうすることで、問題を切実なものとして捉えられ、自分の将来とかかわりのあることとして考えるようになるだろう。そして、地元の豊橋港・三河港が、自分たちの将来、日本の将来を支える大切な港であることを再認識し、これからの発展を願う思いを強くもつようになるだろうと考えた。

4 単元構想 (11時間完了 本時9/11)

※目標にせまるための手だて

豊橋にある港って、どんなはたらきをしているのかな①

- ・豊橋にある港は、三河港とって神野地区や明海地区などがあるよ。
- ・田原や御津、蒲郡にまで広がっているんだね。
- ・特に自動車の輸出入がさかんで、取引額が全国で第7位なんだって。
- ・自動車だけでなく、日本最大級の濃縮オレンジジュース専用ターミナルがあるんだね。

今まで知らなかったけど、豊橋の港ってすごい港のようだね

三河港の様子を実際に見てみたい②③ 見学Ⅰ

<港>

- ・外国の自動車がたくさん並んでいるね。どこから運ばれてきたのかな。
- ・コンテナがたくさんあるよ。何が入っているのかな。
- ・豊橋港は、いろんなエリアに分かれていて、たくさんの人が働いているよ。

<船>

- ・自動車運搬船には約6000台もの自動車が積めるんだね。
- ・車と車の間がものすごく狭くて驚いたよ。
- ・船の中で働いている人は、安全にとっても気をつけていたよ。

※三河港に児童の関心を向けさせるために、豊橋市みなと振興課が編集・発行したリーフレットを配付し、概要をつかめるようにする。

※船や港には、たくさんの働く人々がいて、そのような仕事によって三河港が支えられていることを知るために、自動車運搬船や港に隣接するフォルクスワーゲングループ・ジャパンの自動車整備工場の見学を設定する。

実際に見ると、三河港にはたくさんの人が働いているんなものがあったよ

三河港で働いている人は、どんな仕事をしているのかな④

<港>

- ・ガントリークレーンを使って、コンテナの積み下ろしをしているよ。
- ・港の護岸工事をしている人たちがいるよ。
- ・明海地区には大企業の工場がたくさんあるよ。

<船>

- ・自動車運搬船から、自動車を降ろす作業をしているよ。
- ・自動車を運ぶような大きな船を造っている造船所もあるんだね。

※三河港や船に関する仕事について、更に詳しく知るために、日本海事広報協会が編集・発行したパンフレットやワークブックを資料として配付し、個々の追究を支える。

三河港の明海地区にはたくさんの企業が進出していて、いろいろな仕事があるんだね

明海地区で働いている人やその仕事を見てみたい⑤⑥ 見学Ⅱ

- ・鉄板が全長200mの大きな船になるんだね。
- ・船や重機のスケールが大きくて驚いたよ。
- ・設計から進水までの全ての作業をこの工場で行っているんだね。

明海地区では、海運に使われる大きな船も造っているんだね

海運がどのように行われているか知りたい⑦⑧

- ・荷物を運ぶために何か月も船の中で生活するんだね。
- ・日本の産業を支える大事な仕事なんだね。
- ・荒波にもまれたり、海賊に狙われたり、命がけの仕事なんだね。

海運は大切な仕事なのに、働く人の数が減っているんだって

このまま日本人の船員が少なくなってしまうても大丈夫かな⑨ (本時)

- ・外航船では、日本人船員の割合が4パーセントほどしかないんだって。
- ・60才以上の船員の割合が高く、高齢化しているよ。
- ・日本の船に乗る船員も外国人が増えて、日本人は少ないよ。

日本にとって大切な海運を、多くの人々の力で支えていかないといけないね

今まで学習したことをたくさんの人に知ってもらいたいな

- ・海運の大切さを新聞にまとめて、みんなに読んでもらいたいな。

日本の海運を支えていくために、三河港がこれからも発展してほしいな

※調べた内容を確認したり、出てきた疑問を解決したりするために、港と船の仕事の両方に関係する造船所の見学と、ポートインフォメーションセンターであるカモメリアへの見学を設定する。

※海運の実際の様子についてよりリアリティーをもって知るために、大型運搬船の船長をゲストティーチャーとして招き、仕事の内容や船内での生活など、経験談を話していただく。

※日本にとっての海運の重要性や、その中において三河港が果たす役割について考えるために、海運産業における日本人従事者の減少がわかる資料を提示する。

※海運や三河港の役割と重要性を多くの人に知ってもらうために、今まで学習した内容を新聞にまとめ、多くの人に読んでもらえる場を設定する。

5 本時の学習

(1) 目標

- 日本人船員の減少や高齢化についての話し合いを通じて、日本の海運を支えていくために必要なことについて、自分の考えをもち、適切に表現することができる。

(2) 本時にあたって

児童は今までに、自動車運搬船や造船所など、海運に関係する様々なものや施設・設備について、見学したり、話を聞いたりして学習を深めてきた。これらを通して、日本の貿易の約99パーセントは海運によるものだと知り、その重要性について認識している。一方で、近年、海事産業に携わる日本人数の減少が懸念されている。特に外航船では、日本人船員の割合が約4パーセントと低い水準となっている。このような現状を児童に提示することで、現在の日本の海運が、外国人船員の働きに支えられており、それによって自分たちの生活が成り立っていることをおさえない。そこから、日本の海運をこれからも守っていくためには、日本人が海運について関心を高くもち続けることが必要であることに気づける話し合いへとつなげていきたい。

(3) 展開

学習活動

※ 教師の支援

◎ 評価

0

このまま日本人の船員が少なくなっても大丈夫かな

- 1 調べた内容や資料をもとに、自分の考えをみんなに伝える

<大丈夫>

- 自動車運搬船で会った外国人船員は、みんなやさしそうで良い人だったよ。
- 船長や責任がある立場には、日本人が多くいるから大丈夫だよ。
- 日本人の人件費が高いから、外国人の船員が多くていいんだよ。

共生

安全・安心

人件費

<大丈夫じゃない>

- 外国と日本の関係が悪くなったら、日本のために船を動かせなくなるんじゃないかな。
- 日本の貿易のほとんどを海運が担っているのに、日本人船員の数が少ないのは心配だな。
- 日本人の人件費が高くて、それだけ大事な仕事だから増やすべきだよ。

日本にとって海運の働きは重要なのに、今のままで本当に大丈夫かな

20

どうして日本人の船員は減ってしまったのかな

- 2 船員の仕事の大変さと重要性について考える

<大変さ>

- 何か月も船の上で生活をしないとイケないよ。
- 事故があつたら命にかかわる危険な仕事だからだよ。

<人件費>

- 日本人の人件費は外国人の人件費より高いから、あまり雇われないんじゃないかな。

<関心の低さ>

- 船員の仕事について、小学生はあまり知らないんじゃないかな。
- 私たちが学習する前は、港や船のことについて全く知らなかったよ。

海運の重要性を知って、みんながもっと関心をもたないとイケない

35

日本の海運を守るために、これからどうしたらよいか

- 日本のみんなが、もっと船員や港の仕事について関心をもつべきだよ。
- 船員の仕事の魅力を、たくさんの人にアピールした方がいいよ。
- 今まで学習したことをまとめて、たくさんの人に伝えたいな。

45

※根拠のある発言となるように、今まで学習してきた内容と結びつけるような助言や板書を行う。

◎調べた内容や資料をもとに、自分の考えをみんなに伝えることができたか。(発言、ノート)

※船員という仕事への関心の低さを捉えるために、小学生の将来になりたい職業のランキング(日本FP協会、2017年)を提示する。

◎話し合いを通して、これからの日本の海運を守っていくために必要なことに気づけたか。(発言、ノート)